



令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果

1 はじめに

本年度の「全国学力・学習状況調査」は、全国の小学6年生と中学3年生を対象として、令和5年4月18日（火）に実施され、本校の6年生も参加しました。この調査の目的は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導などに生かしていくことにあります。本校の調査結果の概要と今後の取組についてお知らせします。

2 調査の概要

(1) 教科に関する調査

教科は、国語と算数です。知識と活用（応用）を一体的に問う問題になっています。

(2) 質問紙による調査

学習への意欲や方法、学習環境、生活の様子等、子どもたちの学習や生活・意欲に関する質問紙による調査です。



3 教科における本校の状況（○：よかったところ △：課題のあるところ）

【国語】

◎全体的に平均正答率は、全国平均をやや下回りましたが、県平均とほぼ同等でした。

○特に全国平均を上回ったのが「原因と結果など情報と情報との関係について理解している」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題でした。

△全国及び県平均は上回っていますが、正答率が低かったのが「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方工夫することができる」問題でした。

△「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができる」「日常よく使われる敬語を理解している」問題が全国及び県平均を下回りました。

【算数】

◎全体的に平均正答率は、全国平均とほぼ同等で県平均は上回りました。

○特に全国平均を上回ったのが「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」「示された日常生活の場面を解釈し、少数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる」問題でした。

△全国及び県平均は上回っていますが、正答率がやや低かったのが「百分率で表された割合について理解している」問題でした。

△「正三角形の意味や性質について理解している」「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」「(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考慮することができる」問題が全国及び県平均を下回り、正答率が低い問題でした。

4 教科における主な改善点

【国語】

○伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいか考えられるようにするため、それぞれの図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科と関連して指導していきます。

○複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句とを線でつないだりするなど、図示することによって情報を整理し、語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解し、そのよさを実感できるよう指導していきます。

○話を聞きながら、自分の考えと比べて共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめていく活動を取り入れていきます。

○日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるよう、実際の場面を通して、尊敬語と謙譲語について理解できるように指導していきます。



【算数】

- 図を用いて、割合を捉えたり、基準量を決めて、それに対する比較量を捉えたりする学習を通して、百分率で表された割合について理解できるように指導していきます。
- 目的の図形をつくるための操作の見通しを立てたり、底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大きさを判断したりといった、観察や構成などの活動を通して図形の意味や性質について考えるよう指導していきます。
- 筆算を具体物や図に表して、式と関連付けて考えたり、計算の結果を振り返ったりしながら、計算に関して成り立つ性質と様々な事象を関連付けて考えるよう指導していきます。



5 質問紙調査の主な特徴

＜学校生活＞

- 「人が困っているときは進んで助ける」、「いじめはどんな理由があってもいけない」、「友達関係に満足している」、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できる」といった学校生活の基本について肯定的に受け止めている児童が多く、まじめに力を合わせて学校生活を送っている素直な子どもたちの様子がうかがえました。
- 「将来の夢や目標を持っている」、「人の役に立つ人間になりたい」、「地域や社会をよくするために何かしたい」、「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」、「先生はよいところを認めてくれて」についての回答は全国・県平均を上回っており、自己肯定感をもち、目標を持って、前向きに生活する子どもたちの様子がうかがえました。
- 国語・算数・英語の勉強は大切であり、将来社会に出たときに役にたつと思っている児童も多く、また、それぞれの勉強を好きと感じ、友達と意見を交換しながら、主体的に取り組んでいる様子がみられました。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする」「学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」「話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」についての回答は全国・県平均を上回っており、学級での話し合い活動に意欲的に取り組み、自分で考え、力をつけている様子がうかがえました。

＜家庭生活＞

- 家庭学習の時間は「1時間以上2時間未満」と回答した児童が一番多く、全国・県平均を上回りました。また、「2時間以上3時間未満」と回答した児童も多く、全国・県平均を上回りました。「家で自分で計画を立てて勉強をしている」との回答も多く、家庭学習が定着し、日々努力している様子がうかがえました。
- 「毎日同じくらいの時刻に寝ている・起きている」についての回答も全国・県平均を上回り、規則正しい生活をしている様子がうかがえました。
- △「新聞を読んでいる」の回答は全国・県平均を上回っていますが、新聞をほとんど、または、全く読まない児童は6割程度ありました。学校でも新聞の活用について指導を工夫し、新聞に触れる機会をつくっていききたいと思います。



6 質問紙調査からの改善点

- * 基本的な生活習慣については、概ね良好ですが、改善を要する状況については、家庭と連携してよりよい生活が送れるよう粘り強く取り組んでいきます。
- * 1時間以上家庭学習をしている児童は全国・県平均を大きく上回っています。ですが、読書をする時間が10分以下の児童が4割程度ありました。テレビ・スマホなどの時間が多くなっていることも推測されます。テレビ・スマホの視聴の在り方については、小中連携教育とも関連させ、家庭と連携して取り組んでいきます。

7 今後の取組

- ◎社会に出ても学校での学びが生かされるよう、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」の3つの柱をバランスよく育み、知・徳・体の調和のとれた『生きる力』の育成をめざし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んで参ります。全校体制として、動き出したいくなるような課題の設定、児童が主体的に参加する対話や話し合い活動の工夫、「見通し」と「振り返り」を意識した授業（「山梨スタンダード」、「甲府スタイル」の授業）を推進していきます。
 - ◎子どもたちが、夢や希望に向かって日々生き生きと生活するために、学校が安心できる、自己有用感や充実感を感じられる場所であるよう、一人一人が大切にされる学級づくり、学校づくりに努めていきます。
 - ◎家庭学習が日々の授業の振り返りや予習、発展的な学習等、効果的な学びとなるよう、今後も家庭と連携して取り組んでいきます。ご協力をよろしくお願いいたします。
- ◆本調査参加の6年生には、個別懇談の折りに、具体的に課題等についてお話しをさせていただく予定です。